御　挨　拶

公害防止対策委員長　小　坂　二度見

この度の医学部長就任と同時に全学の公害防止対策委員長を拝命し，些かの戸惑いを感じていますが，誠心誠意職責を果したいと思っています。

近頃の新聞記事でたびたび目につくのが環境の汚染と自然の保護に関するものであります。環境保全は社会生活が近代化するにつれ世界中の国で問題となっていることでありますが，特に国土が狭く資源に乏しい日本が先進工業国としての位置づけを維持し，さらに発展を続ける上で，環境汚染は大きな課題となっています。また，この問題は一軒の家の単位から，地区，市町村，県，国，さらに国際間，地球全体あるいは大気圏にまで広い範囲にわたり，しかも自然界の複雑な生態系や気象条件などとの関わりもあり，実に大きなテーマとして把握されるべきものであります。最近環境に対する社会の意識は高く，今年６月の某新聞社の記事の中に環境問題が71件も掲載されていて，内訳は，大気汚染26，地球環境問題20，水質汚染６，自然保護５，ごみ５，原子力３，騒音２，その他４でありました。特に最近国際的に話題になっているのがフロンガスと炭酸ガスによるオゾン層の破壊と地球全体の温暖化であり，これに日本は工業国として大きく関連しています。例えば輸入木材を確保するための熱帯雨林の無秩序な伐採，化石燃料の大量消費などによる現在の生活を無神経に維持していると，環境破壊の結果として近い将来大変な事態が起こる可能性がいわれています。環境保護のためには，それぞれの人が自分たちに出来ることから努力すべきであることと，ある程度の不自由をしても自然環境を守るという精神をもつべきであると痛感する次第であります。

現在の重要課題となっている環境問題への対応として，従来聖域扱いを受けていた大学および研究機関の実験排水も水質汚濁防止法の適応を受け，1977年に岡山大学に有機系・無機系の処理部門が設置され，1982年には洗浄排水・生活排水部門が追加され，岡山大学環境管理センターとして公害防止に努めることになりました。さらに1985年からは湖沼水質保全特別措置法（湖沼法）が施行され，富栄養化しやすい児島湖ととも

に岡山大学津島地区も窒素およびリンの排出規制を受けています。瀬戸内海の水質汚染にかかわる環境管理センターは大学における実験，研究あるいは診療により大量に排出される有機物，無機物の排液部門および洗浄，生活排水部門の専門処理施設であり，環境汚染防止の上での重要な責務を担っています。当センターは環境問題全体からいえばごく狭い部分への関与ではありますが，自分のところで排出する有害物質を自営で処理するという基本概念を全うする意義は非常に大きく，円滑な運営が続けられますよう，皆様のご協力をお願いします。